あなたと博物館

松本市立博物館ニュース　No.157　2008.7.1

まつもとの七夕 2008　7月5日㊏▸8月24日㊐

今年も本館を中心に、松本の七夕をテーマにまる博コラボレーション企画を開催します。7月19日と8月2日の土曜日には、4年ぶりにまる博バス“カータリ号”が復活します。例年の“ホウトウサービス”や“七夕人形作り講座”も行います。

「七夕人形と供え物」	「もみじの七夕と芋煮」	「星に願いを」	「七夕人形展」
松本市立博物館	安曇資料館	窪田空穂記念館	馬場家住宅

もくじ

誌上博物館◇七夕の雨と人形 …… 2-3
安曇地区・稲核の七夕 …… 4
町・人・そこに愛『おかち町七夕まつり』徒士町公民館長三村伊津子さんのお話から …… 5
松本市立博物館ニュース『あなたと博物館』No.135～157　索引 …… 6-7
ガイドコーナーはんてんぼく …… 8

七夕の雨と人形

はじめに

平成17年、松本市立博物館所蔵の七夕人形コレクション45点が国の重要有形民俗文化財の指定を受けて50周年の節目に文化庁の芸術拠点形成事業の支援を受けて特別展「七夕と人形」を開催しました。この開催を機に、博物館周辺の皆さん（商店街・町会）と協働してマチに七夕人形を飾る「松本の七夕2005」を始め、以後毎年開催するこの催しは博物館と地域との理想的協働の在り方として全国の博物館関係者に事例が報告されています。

今年も「松本の七夕2008」のなかで博物館周辺の皆さんと協働で地域と博物館が一体となった企画展ができれば、と考えています。ここでは、以前に述べたことも含めて紹介し、少しでも松本の七夕について一緒に理解を深めてみたいと思います。

1 丸山太郎の記した七夕

松本民芸館の創館者としても知られる丸山太郎はその著書『松本そだち』(1) のなかで七夕の思い出を次のように記しています。

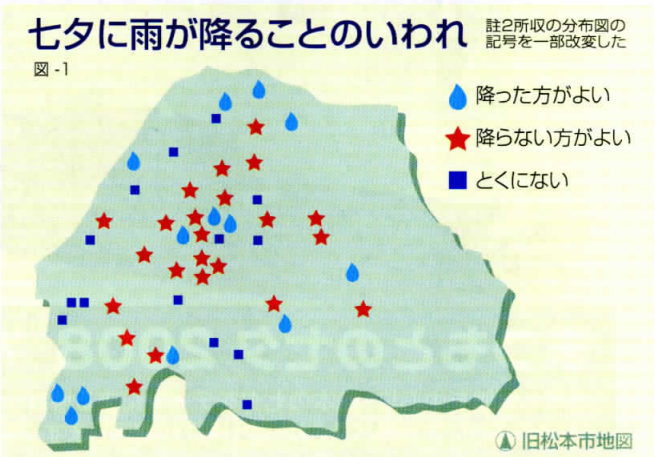
> 長男または長女を初子といい、初子の生まれた家に七夕人形を親戚から贈る習慣がある。吾が家にある、顔が板で安物の木綿更紗を着た七夕は、よほど古いらしい。中には顔を木版で押して、紙の衣装を着せたものもある。板の顔に横の腕木の付いたものは、子供の着物をそのまま着せたものである。その他、目・鼻・口を角棒に描いて、長い長い足をつけたものを「かわたり」と呼び、これには子供の着物のお尻をはし折って着せたもので、七夕の星を背負って川を渡った人足とされていた。川越え、足長ともいわれた。中々ユーモラスな考え方で、現代人のように科学々々で割り切った生活よりも、余程むかしの人の方が生活を楽しんでいたように思う。
>
> 七夕を前に机を置いて、果物・もろこし・赤ほうづき(ママ)・林檎などのほかに、自分たちと同じ夕飯を供えた。この日、世間では平たいうどんに黄な粉をかけたホートウを食べたが、吾が家ではあまり好まないらしく記憶にない。

丸山は明治42年（1909）生まれですから、少年時代の思い出だとすれば、大正中期頃のものでしょうか。丸山が育ったマチでは、8月6日の朝に竹屋が「竹やー、竹やー」と自転車で竹を売りに来て、どこの家でも待ち構えていて2本ずつ買い求めたといいます。松本の七夕に欠かせない、人形とホウトウの記述がありますね。

2 七夕の雨

星祭りの七夕に雨？と思う方もいるでしょうが、長野県内では七夕の雨について様々ないわれがあります。雨が降ると天の川があふれて彦星と織姫が逢えないからかわいそうだといったり、道がぬかって織姫が困るなどといったりするところもあります。いっぽう、これとは逆に、晴れると二つの星が巡り逢って虫がわいたり病気がはやるといったり、雨が降ると七夕様が逢えないので病気がはやらないといったりするところもあります。また、七夕の日は三粒でも雨が降るといわれ、降らないと不作になるというところもあります。雨が降った方が良いといういわれは中信地方から南信地方にかけてみられ、降らない方が良いといういわれは、中信地方と北信地方に点々とみられます。

では、旧松本市域ではどんないわれがあるのでしょうか。図－1にあるように、はっきりとした地域的な特色はみられません(2)。入山辺東桐原では雨が降ると彦星と織姫が逢えないので降らない方が良いといわれています。いっぽう、寿赤木では七夕にたとえ一粒でも雨が降ると病がはやらないといわれています。また、岡田伊深では七夕に雨が降ると茸が生え、秋は豊作になるといわれています。事例がそれほど多くはありませんが、以上紹介したいわれは水と関連がありそうです。入山辺は薄川流域に位置しある程度水が豊富であったのに対し、岡田方面は水が少ないところで、田溝池や塩倉池などの灌漑用の溜池から水を補給してきたという地区の特徴とも関連があるようです。



七夕＝星祭り＝晴れ、という思いが強いようですが、いっぽうこの季節は旱魃で農家の人びとにとっては水が必要なときでもあります。雨が三粒でも降れば豊作になるといういわれは、彦星と織姫が逢えるようにと晴天を願い星祭りをおこなう都会的な考えとは異なり、たとえば今井に顕著にみられるように農耕を尊重する信仰によったいわれではないでしょうか。

3 七夕の人形

長野県内では雛祭り、七夕などを月遅れでおこなうところが多いようです。県内各地では短冊に願いごとや星の名前、詠んだ歌などを書いて竹につるし、庭先に立てて季節の野菜などを供えることがオーソドックスなやり方のようです。この七夕行事のなかで、旧松本市域ではふたつの地域的な特徴がみられます。ひとつは七夕の人形を飾ることであり、もうひとつはホウトウという小麦粉でウドンを作るようにして幅広に切り、黄粉や餡であえた食べ物を七夕に供え、食べることです。

この日に七夕の人形を飾るところは、旧松本市域を含んだ中信地方の平坦部や東部の一部から安曇野市・大町市・北安曇郡中南部にかけての範囲です。現存する人形から大きく分けると①人がた形式、②着物掛け形式、③紙雛形式、④流し雛形式の４つになり、現在も飾られる人形はおおむね②③の形式が多いようです。

では、松本ではいつごろから七夕の人形が作られ、飾られるようになったのでしょうか。江戸時代中期から後期にかけていくつかの文献にその様子が記されています。松本地方の七夕人形の記述は、天野信景（さだかげ）の『塩尻』（正徳４年・1714）(3) が最初かと思われます。「初秋七夕、町々縄を以て家と家との軒にかけ、路を横切りてこれをはり、夫に木にて人形をいとおろそかに作り紙衣をきせいくつともなく彼の縄につりおく事、城下皆おなし」とあります。これによる限り、人形を飾ることが現在のようにイエの行事ではなく、マチという集団の行事で、縄を張ることがミチキリ（道切り）の性格を帯びていたのではとも思われます。菅江真澄は『委寧（いな）の中路（なかみち）』（天明３年・1873）(4) のなかで「六日より、軒はに方なる木にて、めおのかたしろを造りて糸にて曳きはへてけり」と記し、星にささげるとして、縁側に御神酒や団子などの供物、軒先に男女の人形を糸にゆわえて吊り下げた様子を描いています。

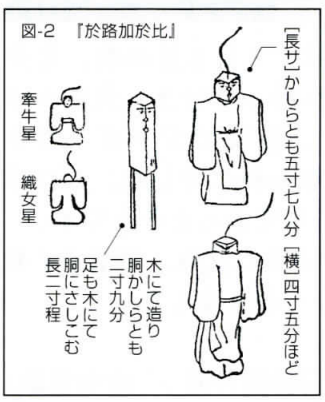


図-2 『於路加於比』

さらに時代がくだり、文化元年（1804）生まれの国学者笠亭仙果（りゅうていせんか）は『於路加於比（おろかおひ）』(5) のなかで「牽牛織女二星の神形」の項で天野信景の『塩尻』を引きつつ、松本城下町で飾られていたであろう七夕の人形を入手して、そのありさまを次のように紹介しています。図－２のように、まず彦星は「紙衣いくつもかさねてきするなり、肌着白にて同じ色の帯あり。次に赤衣、次に白衣に青のこしまき、黄色の帯をうしろにて結び、次に黄の衣をきせ、上衣は青にて細長く大きく、青き帯を前にて結ぶ」と説明され、次に牽牛織女は「かしら長一寸一分ほど」「彦星にくらぶれば、織女はいとさゝやかなり」と具体的に記されています。挿絵は今日のカータリ（川渡り）に近いかたちをした人形が描かれ、「木にて造り胴かしらとも二寸九分足も木にて胴にさしこむ長二寸程」と説明がなされています。

七夕に人形を飾るとなると、七夕＝星祭り、という思いが強くなります。しかし、七夕人形の着物掛け型式の一種に、丸山太郎も記述しているアシナガ（足長）とか写真－１にあるようなカータリという人形は少しちがうようです。角柱形・短めの胴体・板材の足を持つ男形のみの人形で、たとえ三粒でも雨が降れば殿様・姫様と呼ばれる人形を背負って天の川を渡るなどといわれています。これらの人形は七夕にあらかじめ雨が降ることを予想して「尻ぱしょり」をしています。

写真-1 カータリ

おわりに

紙数の関係で、七夕の序の口で今回は終わりにしますが、七夕人形をみてもまだまだわからないことがたくさんあります。ホウトウなどの食べ物に触れることができませんでしたので、４ページの「安曇地区・稲核の七夕」「町・人そこに愛『おかち町七夕まつり』」を読み、企画展「まつもとの七夕 2008」をご覧ください。

なお、今年の企画展は４年振りに博物館巡回バス「カータリ号」が走ります。このカータリの由来は、本文のなかで説明したとおりです。

（館長補佐 ／ 窪田雅之）

註（1）丸山太郎『松本そだち』　信濃路　昭和51年
（2）拙稿「七夕の雨についてのいわれはなにか」（『松本市史3民俗編』）　平成 9年
（3）『日本随筆大成』Ⅰ-20　吉川弘文館　平成 8年
（4）『菅江真澄遊覧紀』3　平凡社ライブラリー　平成12年
（5）『日本随筆大成』Ⅱ-15　吉川弘文館　平成 8年

松本市安曇資料館　Tel.0263-94-2134

安曇地区・稲核の七夕

もみじの七夕飾り

もみじの七夕飾り

安曇地区の稲核（いねこき）では、昔から七夕飾りにもみじを使います。

安曇地区でも、稲核以外の集落では笹で七夕飾りをつくります。もみじを使うのは、笹や竹が少ないからなのか、ほかになにか理由があったのか、はっきりしません。

稲核は梓川の段丘の上にある集落です。かつて、集落のまわりの山の斜面には、桑畑や、炭の原木を伐り出す広葉樹林がひろがり、暮らしと密接に結びついていました。山から七夕飾りに使うもみじの枝を切ってくるのに格別の苦労はなかったことでしょう。

ダムができる前の稲核（昭和39年4月24日、重野昭茂撮影）

しかし、山との縁が薄れるにつれて、いつのころからか、稲核でも、七夕飾りにもみじではなく笹や竹を使う家が多くなりました。

そこで、安曇資料館では、平成18年から、稲核の住民を対象に、もみじの七夕飾りをつくる行事をはじめました。現在、稲核に住む小中学生は20人足らずですが、その多くが参加してくれます。おとなや、稲核にある安曇保育園の園児の参加もあります。この行事でつくった七夕飾りは、それぞれの家庭に持ち帰るほか、安曇資料館、稲核郵便局、消防署の安曇出張所、道の駅「風穴の里」などにも飾ります。

「もみじの七夕飾りをつくろう」（平成19年8月2日）

七夕焼き

七夕飾りを集める子どもたち（平成19年8月8日）

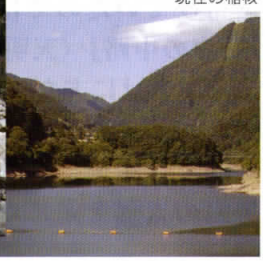
稲核の七夕は、月遅れの8月7日です。翌8日の朝、子どもたちが手分けして集落の中をまわって七夕飾りを集め、集落の中心部にある安曇保育園の庭に積み上げます。地区ＰＴＡと育成会の役員、それに消防団のメンバーが見守るなか、火をつけて燃やします。

七夕焼き（平成19年8月8日）

ダムができる前の七夕行事

稲核をはじめとする安曇地区の集落は、昭和44年（1969）に「安曇三ダム」（稲核・水殿（みどの）・奈川渡（ながわど）の三つのダム）ができてから大きく変わりました。

稲核の梓川の岸辺と子どもたち（昭和39年4月13日、重野昭茂撮影）


現在の稲核

かつては、子どもたちは、８月８日の朝、七夕飾りを集めて梓川の河原へ持って行き、火をつけて流しました。そのあと、河原でジャガイモやササゲを煮て食べるのがならわしでした。これは子どもたちだけの楽しい行事であったそうです。

現在は、この場所は稲核ダムに沈み、河原でイモを煮て食べるたのしみもなくなりました。

（松本市安曇資料館 ／ 山本信雄）

町・人・そこに愛『おかち町七夕まつり』

徒士町公民館長三村伊津子さんのお話から

私たちの町は、松本城の北側に位置する93戸の閑静な住宅地です。江戸時代は徒士（かち）の住まいだったことから、旧町名を徒士町（おかちまち）といいます。毎年7月の始め、徒士町の通りは七夕飾りで美しく飾られます。最近では伊那から見にきてくれた方もいました。こんな小さな町会からこんなこともできるよと発信し続けて6年が経過しています。

元々は月遅れの8月に子どもたちを対象にホウトウを食べる七夕行事を行なっていました。子どもたちの行事が8月に集中して忙しいという意見があったことや、町のおじさんたちが七夕飾りをしたらどうかと提案してくれたことから始まりました。町内の皆さんからの「協力するよ」という力強い言葉もあり続けられてきました。

5月頃、実行委員会を立ち上げ皆で準備を始めます。竹は西条にある徒士町の畑から取ってきます。人形は市内の人形店から紙だけ買ってきて、簡単なオリジナルなものを作っています。22本の竹に一体ずつ飾ります。そのほかの飾りも全部手作りです。飾りを買いに行くと、「徒士町さんだね」といって、もう売れないような紙や飾りを譲ってくれるお店も出てきました。

当日は平成13年から行なっている大新鮮市も行ないます。新鮮市は、どの売り場にも行列が出来るほどの賑わいで、たちまち売り切れてしまいました。子ども広場も大勢の子どもたちが楽しみ、無邪気に遊んでいました。

夕方からは、各家に灯篭を飾り雰囲気を盛り上げます。花火大会も行ない子どもから大人まで町内のみんなが、楽しみ交流できるもりだくさんの内容となっています。

普段は話をすることのない住民同士が交流することで、お互いの顔が見える場となっています。

今年は「松本の七夕2008」のさきがけとして7月に行ないますが「やはり、七夕は月遅れの8月に行なうのが良いのでは…」という声もあります。私たちの幼い頃は七夕行事は8月に行なうのが当然でした。来年は8月の月遅れに戻し博物館や他の地域と共に「松本の七夕2009」の一環として、月遅れに行なうことも考えたいと思います。この習わしを大事にすることが、松本らしさにもつながるのではないでしょうか。そして、屋根のない松本まるごと博物館の一つの活きた展示として行事がさらに輝いていくことと思います。

また、昨年は北馬場の皆さんも「できることから始めよう」ということで、大井戸を使って飾りをつけました。ぜひ皆さん、一緒に徒士町から北馬場へ、北馬場から博物館へ、博物館から商店街へとつながるように、まずは飾りからだけでも一緒にやっていきませんか。七夕人形を飾る七夕が松本の風物として面的に拡がり、その風景が市民の皆さん、観光客の皆さんに愛されるように願っています。

来年度は徒士町で整備されている高橋家住宅なども活用し、お茶を飲んで話をしてホウトウを食べて、市民も観光客も誰もが、ゆっくりと七夕を堪能（たんのう）できるような空間を拡げていかれたらなあと考えています。

（文責 旧開智学校 学芸員 ／ 山村里佳）

☆七夕まつり☆ 保育園でもやっています！

里山辺の山の子保育園では、月遅れの８月７日におおわしさん（年長）が作った作物をお供えし、七夕人形を飾って七夕まつりを行なっています。保育園のような人間の根っこの部分を育てる場所で、このような松本の風物が見られることは大切なことだと思います。

松本市立博物館ニュース『あなたと博物館』No.135～157　索引

その他の主要記事について　[ ]で示した掲載欄は、[はんてん]→はんてんぼく・ガイドコーナーはんてんぼく、[開智Q&A]→重文・旧開智学校Q&A、

号	発行日	巻頭	誌上博物館	
135	H16.11. 1(2004)	拝啓 窪田空穂様　～「空穂と交流のあった文化人たち―書簡は語る―」	「空穂と文化人たちとの交流」	小松源一郎
136	H17. 1. 1(2005)	内田よいとこ 一度は来ましょ　お寺　湯遊び　御柱	東山山麓の御柱	百瀬　将明
137	H17. 3. 1(2005)	中野土人形展	中野土人形展	須田明日香
138	H17. 5. 1(2005)	松本まるごと博物館に新しい仲間が増えました	時の記念日関連事業 企画展「時を創った先人たち ―江戸のモノづくりと和時計―」	木下　守
139	H17. 7. 5(2005)	七夕人形コレクション 人々の願いが託されて…「七夕人形学」ここに始まる!	七夕人形コレクション重要有形民俗文化財指定50周年 道祖神のように愛され、親しまれる博物館に ―開館99周年を迎えた市立博物館の今と私たちの課題から―	竹原　学 窪田　雅之
140	H17. 9. 1(2005)	お城のためなら、え～んやこ～ら! ～国宝松本城解体復元50周年記念特別展 未来に伝える私たちの松本城―解体復元にかけた思い―	国宝松本城解体復元50周年を迎えて	青木　教司
141	H17.11. 1(2005)	お城と城下町 発掘双六　～企画展 松本城ができた頃	『遺愛集』が語りかけるもの 窪田空穂記念館　平成17年度企画展によせて	田川恵美子
142	H18. 1. 1(2006)	新春を告げる…松本あめ市　～1月2日は博物館へ行こう!	正月の飴　松本あめ市の原点をさぐる	木下　守
143	H18. 3. 1(2006)	松本の子どもの短歌・2005中学生の部最優秀賞 ペダルこぐ足がふわりと風にのりどこまでだって行けそうな夜 ～「松本の子どもの短歌・2005作品展」	稲核菜―生きた文化財―	山本　信雄
144	H18. 5. 1(2006)	民俗VS考古!!人々の祈りについて異分野から考える それぞれの「祈りのカタチ」とは? ～特別展『祈りと偶像』	博物館開館100周年・考古博物館開館20周年記念 特別展『祈りと偶像』	澤柳　秀利・福富　佳織
145	H18. 7. 1(2006)	過去・現在・未来　今ここに明かされる博物館100年の軌跡と未来への第一歩! ～松本市立博物館開館100周年記念 特別展『博物館100年モノ語り』 記念講演会『市民とミュージアム―明日への展望―』	明治三十七、八年戦役紀念館に学ぶ ―特別展「博物館100年モノ語り」開催にあたって―	竹原　学
146	H18. 9.10(2006)	9月21日 博物館100回目の誕生日 ～松本市立博物館開館100周年記念日 ●平成18年9月21日(木)● 博物館無料開放と記念品贈呈 100周年記念式典 記念シンポジウム		
147	H18.11. 1(2006)	うまくできるかな!? 体験講座　機械時計を作ろう! 開催	平成18年度窪田空穂記念館企画展 空穂と妻藤野―その愛と悲しみ―	田川恵美子
148	H19. 1. 1(2007)	今年は松本市市制施行100周年の記念すべき年。 歳の神　奈川地区の小正月の火祭り　が福を呼び込みます。	誌上博物館　明治三十七、八年戦役紀念館開館前の様子 ―『史料開智学校』の記述から―(1)	窪田　雅之
149	H19. 3. 1(2007)	松本市の始まりは100年前そしてこれからのその始まりに ～「松本市100彩」	松本市市制施行100周年記念特別展 「松本市100彩―来し方そして未来へ―」開催にあたって	一ノ瀬 幸治
150	H19. 5. 1(2007)	たてもの野外博物館「松本市歴史の里」リニューアルオープンしました。 松本の自然と人との関わりを遊びながら楽しく学ぼう! 「山と自然博物館」オープン	日本の時計　明治・大正・昭和	木下　守・竹内　靖長
151	H19. 7. 1(2007)	ウィーン展好評開催中　松本とウィーンを結ぶ赤い糸	松本城天守を救え～ウィーン国際博覧会と松本博覧会～ 松本市歴史の里へようこそ!! 松本の人と自然の関わりを遊びながら楽しく知ろう～山と自然博物館案内～	窪田　雅之 臼井　邦彦 小原　稔
152	H19. 9. 1(2007)	松本市市制施行100周年記念北京故宮博物院展 清朝末期の宮廷芸術と文化	知られざる江戸時代信州の鉄砲開発者たち ～時計博物館5周年記念特別展を終えて～	竹内　靖長
153	H19.11. 1(2007)	松本まるごと博物館　友の会「刀剣展」武士乃心	詩歌人たちの青春のうた	田川恵美子
154	H20. 1. 1(2008)	梓川上大妻七区の三九郎と「おいべっ様」の歌	城山の言い伝え～デーラボッチ～ 松本市立松本幼稚園設立のころ―開園120周年に寄せて―	小原　稔 山村　里佳
155	H20. 3. 1(2008)	松本の子どもの短歌2007最優秀賞受賞者 今年も生まれました歌人の卵たち　短歌って楽しいよ!!	松本高等学校の植栽～ヒマラヤ杉が植えられた頃～	小澤　弥生
156	H20. 5. 1(2008)	岳都松本　企画展 槍ヶ岳開山とその周辺　播隆展	播隆上人の槍ヶ岳開山	木下　守
157	H20. 7. 1(2008)	まつもとの七夕2008	七夕の雨と人形 安曇地区・稲核の七夕 町・人・そこに愛『おかち町七夕まつり』　徒士町公民館長三村伊津子さんのお話から	窪田　雅之 山本　信雄 山村　里佳

［資料］→資料紹介、［TOPICS］→博物館TOPICS、［ショップ］→ミュージアムショップ通信をそれぞれ表します。

博物館のノートから		その他の主要記事
考古博物館秋季企画展「考古学のなぞ」によせて	桑島　直昭	
		［TOPICS］17年度からの博物館、変わります。（窪田雅之）
		［資料紹介］山本茂実　聞き取りテープ（臼井邦彦）
		［資料紹介］馬場家住宅の出生証明書～木材の墨書～（百瀬将明）
		［TOPICS］ひとの動き
お城を掘る～ここまでわかった松本城と城下町	澤柳　秀利	［新市域を歩く①］安曇地域の博物館と文化財（竹原学）
		［TOPICS］陶磁ファン必見「東南アジアのやきもの」展に期待を！（望月正勝）
		［新市域を歩く②］四賀地区の博物館と文化財（竹内祥泰）
		［新市域を歩く③］梓川地区の博物館と文化財（山岸弥生）
旧開智学校と旧岩科学校との姉妹館提携について	窪田　雅之	［TOPICS］（仮称）アルプス山岳館展示整備アンケート結果の概要について（小原稔）
		［新市域を歩く④］奈川地区の博物館と文化財（竹原学）
博物館100年モノ語り・その1	窪田　雅之	
博物館100年モノ語り・その2	竹原　学	［TOPICS］「松本まるごと博物館コーナー」を博物館各施設に開設（竹原学）
		松本市立博物館に新しく仲間入り『旧制高等学校記念館』（山田一恵）
		［TOPICS］ひとの動き
博物館100年モノ語り・その3 『明治三十七、八年戦役紀念館唱歌』	窪田　雅之	［TOPICS］講演会「偶像に込められた祈りと願い」を開催（廣田早和子）
		［博物館100周年記念特集①］松本市立博物館の主な足跡
		［博物館100周年記念特集②］特別展「博物館100年モノ語り」公募コーナーから
		―『博物館の思い出』『わたしが描く未来の博物館』をテーマに―
博物館100年モノ語り・その4「第4回信濃講座」関係資料	窪田　雅之	［博物館100周年記念特集③］松本市立博物館開館100周年記念事業から
		～平成18年9月24日（日）まで開催～
		［TOPICS①］月遅れの七夕―七夕ほうとうサービス―（福富佳織）
		［TOPICS②］「七夕人形のある風景」―昨年につづきまちを七夕一色に―（一ノ瀬幸治）
		［TOPICS①］博物館100周年記念事業（竹原学）
		［TOPICS②］体験講座 機械時計を作ろう！（木下守）
東山山麓を歩く	望月　優	［TOPICS］第1回ワークショップ
		「新しい博物館について語りませんか」を開催しました
		［TOPICS］ひとの動き
博物館のサポーター達1	横山　英央	
博物館のサポーター達2	鈴木貴美枝	
		［TOPICS］ひとの動き
		松本市立博物館ニュース『あなたと博物館』№135～157　索引

考古博物館から　☎0263-86-4710

古代体験をしよう!～火おこし・勾玉づくり講座～

日　時　8月9日(土)午前9時～正午(予定)
対　象　小学校高学年以上
場　所　考古博物館
受講料　200円～400円(勾玉づくりセット代)
申込み　8月7日までに考古博物館へ

重文馬場家住宅から　☎0263-85-5070

お茶席の会

日　時　7月20日(日)午前10時～正午(裏)
　　8月31日(日)午前10時～正午(表)
場　所　馬場家住宅 主屋
受講料　通常観覧料(大人個人300円・中学生以下無料)のみ

七夕人形作り講座

日　時　7月26日(土)午後1時30分～
場　所　馬場家住宅 主屋
受講料　1,000円(キット代)及び観覧料

松本民芸館から　☎0263-33-1569

企画展「野山の育てた技　ざる・籠展」

会　期　7月8日(火)～9月7日(日)まで
観覧料　通常観覧料

体験講座「楽しいおやき作り」

日　時　7月13日(日)午後1時～3時
場　所　里山辺下金井公民館(民芸館向かい側)
講　師　松崎 鈴子 氏 (工房かごの花主宰)
受講料　800円(材料費・指導料)
定　員　15名 申込み 要申込み(定員になり次第締め切り)

歴史の里から　☎0263-47-4515

草木染め体験

日　時　7月5日(土)薄(ススキ)／8月2日(土)藍(アイ)
　　午前10時～11時
定　員　10名
受講料　1,000円
持ち物　染めたい布類1点(綿、麻、絹など)
　　＊歴史の里で購入もできます
　　エプロン、ゴム手袋、ビニール袋(持ち帰り用)
申込み　3日前までに歴史の里へ

裂き織り体験

日　時　7月10日(木)、24日(木)、8月28日(木)
　　午前の部　10時～正午
　　午後の部　13時～15時
定　員　午前・午後とも各10名
受講料　ティッシュケースがつくれるサイズ 500円
　　ペンケースがつくれるサイズ 1,000円
持ち物　はさみ・裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)
申込み　3日前までに歴史の里へ

四賀化石館　☎0263-64-3900

化石教室

日　時　7月26日(土)・27日(日)／8月2日(土)・3日(日)
　　時間はいずれも午前9時～午後3時半
内　容　化石採集・化石のレプリカ作り・化石館の見学
対　象　小学生以上(保護者同伴)
定　員　30名
受講料　1,000円
持ち物　弁当・水筒・雨具・帽子(小雨決行)
申込み　7月1日(火)から

はかり資料館から　☎0263-36-1191

はかりつくり講座2

日　時　7月20日(日)午前9時30分～
対　象　小学生
受講料　200円～400円(棒はかりセット代)

旧制高等学校記念館から　☎0263-35-6226

開館15周年記念特別展「日本アルプスに挑んだ旧制高校生」

会　期　7月10日(木)～8月31日(日)
会　場　旧制高等学校記念館ギャラリー
観覧料　入場無料(ただし常設展は有料)

日本アルプスに焦点を当て、近代登山－アルピニズムに残された旧制高校生の活躍を探ります。松本高校をはじめ、甲南高校ほかの山岳部による尾根の縦走、初登攀、バリエーションルートの開拓などの足跡を紹介します。

第13回夏期教育セミナー

日　時　8月30日(土)午前9時～午後5時
　　31日(日)午前9時～午後2時
会　場　あがたの森文化会館講堂ホール

第1日目は、旧制高校を舞台とした映画「北辰斜めにさすところ」の制作についての講演と映画の鑑賞を、第2日目は若手研究者の研究発表を行います。
受講申込みは電話で記念館まで

サロン・あがたの森

第64回「女の涙と力こぶ―当世地方出版事情」

日　時　7月12日(土)　午後1時30分～4時
[話題提供者]神津 良子 さん (郷土出版社社長)
会　場　あがたの森文化会館 1-5号室

第65回「明日の我家と日本と世界―経済をもっと身近に」(仮題)

日　時　8月9日(土)　午後1時30分～4時
[話題提供者]降旗 節雄 さん(松本高・経済学者)
会　場　あがたの森文化会館 1-5号室

時計博物館から　☎0263-36-0969

電話のある暮らし100年

会　期　8月9日(土)～9月7日(日)
会　場　時計博物館　3階企画展示室
観覧料　入場無料(ただし常設展は有料)

山と自然博物館から　☎0263-38-0012

自然探検隊2008年(夏)「セミ」を調べよう

日　時　8月10日(日)午前10時～正午
集　合　午前9時50分 山と自然博物館
会　場　アルプス公園
対　象　小学生親子
募　集　15名(定員になり次第締め切り)
持ち物　水筒
受講料　100円
申込み　8月1日(金)午前9時から電話で

窪田空穂記念館から　☎0263-48-3440

短歌講座

日　時　7月13日(日)午後1時40分～3時40分
場　所　窪田空穂生家
講　師　岩田 正 氏　　受講料 1,500円

子ども短歌教室

日　時　8月30日(土)午前10時10分～正午
対　象　中学生以下の児童・生徒及び家族
場　所　窪田空穂生家
講　師　小柳 素子 氏
受講料　無料　申込み 8月17日(日)～8月30日(土)

短歌の教え方講座

日　時　8月30日(土)午後1時～3時
対　象　教職員及び希望者
場　所　窪田空穂生家
講　師　小柳 素子 氏
受講料　無料　申込み 8月17日(日)～8月30日(土)

「松本の子どもの短歌(うた)・2008」短歌募集

募集期間　7月1日(火)～10月31日(金)
対　象　市内小中学校及び盲・ろう・養護学校在学の児童・生徒
応募方法　規定の応募用紙に記入して、学校単位で窪田空穂記念館へ提出
入賞発表　平成21年2月　作品展 平成21年3月

市立博物館バス見学会 文学散歩「安曇野の文学碑」

日　時　7月17日(木)
集　合　松本市役所東庁舎前 午前8時20分
行き先　安曇野方面
解　散　松本市役所東庁舎前 午後4時30分
参加料　1,000円(昼食代・資料代を含む)
定　員　20名
申込み　7月8日(火)午前9時から電話で

夏季講座「窪田空穂の登った山と北アルプスの自然」

日　時　8月2日(土)午前10時～正午
場　所　窪田空穂生家
講　師　清沢 由之 氏
受講料　100円　申込み 7月15日(火)～8月2日(土)

伝統文化こども教室

期日及び講師

分　野	主な講師	日　程
空穂囲碁教室	地元指導者	7月30日(水)／31日(木) 8月1日(金)
	藤澤一就八段	10月11日(土)
空穂将棋教室	石川陽生七段 勝又清和六段	7月26日(土)／8月9日(土) 10月4日(土)／11月8日(土)
空穂百人一首教室	寺沢尚武氏	11月22日(土)／12月6日(土) 12月20日(土)／1月17日(土)
空穂折り紙教室	小松佳子氏	7月5日(土)／12日(土) 8月5日(火)／6日(水)

毎回午前10時10分～正午(7月・11月の将棋は、午前の部に加え、午後1時～3時に上級者の部があり)

場　所　窪田空穂生家(10月の将棋のみ情報創造館)
受講料　無　料
申込み　4分野全日程申込の場合7月5日まで
　　個別申込の場合各教室の実施当日まで

お詫び

館ニュース「あなたと博物館」No.156誌上博物館「播隆上人の槍ヶ岳開山」3ページ21行目で、中田又重が田中又重になっておりました。訂正してお詫び申しあげます。

あとがき

幼いころから、七夕には母がお饅頭を作ってくれて食べました。今年はお饅頭とホウトウを作って、七夕人形を飾ろうかな。　(R.Y)

あなたと博物館 No.157　発行年月日／平成20年7月1日　編集・発行／松本市立博物館　〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133　URL：http://www.city.matsumoto.nagano.jp　e-mail：mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp　印刷 川越印刷株式会社